

「市外の知人や友人に対して福津市を自慢できますか」  
の回答者ごとの幸福度（2,000点満点）

十分自慢できる、やや自慢できる (回答者の 68.3%)	1124.12 点
どちらともいえない、あまり自慢 できない、自慢できない (回答者の 31.7%)	722.54 点

※市民意識調査の調査方法、調査結果については、市公式ホームページをご覧ください。



「暮らしている地域に愛着を持っていて幸福度が高い」という研究レポートが昨年5月、ある証券会社の研究所から発表されました。令和5年度に市が実施した「市民意識調査」でも、同じような傾向が出ています（左表）。また同じ調査で、68・3%と多くの方が福津市のことを「自慢できる」と回答しています。今回の特集では、私の福津自慢から、自身のやりがい・生きがいへとつなげている人々に話を聞きました。皆さんも、福津のまちの「ここが好き」を見つけて、楽しさや愛着、そして幸せへとつなげてみませんか。

# あなたの自慢は何ですか

What are you proud of about Fukutsu City?

問い合わせ 市地域コミュニティ課 ☎0940・62・5017

## 一日の最後に「海」で夕日を見ながら過ごすのが最高の贅沢

「海であそび・海でまなび・海をまもる」をコンセプトに活動する一般社団法人くらげれんごう。その代表を務める山崎唯さんは、小学校での環境啓発授業やごみ拾いアプリの開発などの活動をする上で「海で遊ぶこと」を大切にしています。

山崎さんの夕方の過ごし方は、専らビーチで夕日を眺めること。子どもたちと一緒にビーチで晩ご飯を食べたり、一人のときにはビーチに寝そべてゆっくり夕日を見たり「一日の最後に海で夕日を見ながら過ごすのが最高の贅沢」と山崎さんは言います。

いつも夕方になるとビーチを訪れる山崎さん。「かがみの海」を撮りに来た人たちに「こっちの方がいいよ」「この角度で撮って」などと、かがみの海を上手に撮影する方法をレクチャーしていて、年間100人以上に声を掛けているそうです。そんな自分自身のことを「自称、かがみの海親善大使だ」と笑顔で話します。

「海で遊んでいるうちに海が好きになって、大切な海は自然と守りたくなる。そんな「遊び」の延長でごみを拾う人が増えれば」。山崎さんの「たくさんの人に海の良さを伝えたい」という思いが原動力となり、活動は広がっていきます。



山崎唯 Yamasaki Yui

## 畦町に根付く相互扶助の精神 国民健康保険のルーツ「定礼」

「今、SDGsなど、助け合いが尊重される世の中になっている。その相互扶助について学ぼうと学者たちが畦町を訪れている。それは国民健康保険のルーツである定礼制度があったから」と語るの、唐津街道畦町宿保存会（以下、保存会）事務局長の岩熊寛さん。江戸時代から昭和時代初期まで続いたとされる定礼制度は、地域の人々が、毎年定まった報酬を医師に納めると、診療や投薬を受けられる仕組みです。保険制度が生まれる前から、互いに助け合う医療の仕組みが畦町にあったのです。

そんな畦町は、宿場町として栄えた街並みが残り、7・8世紀ごろに国が建設した古代官道の駅家があった可能性を示す「瓦」が見つかるなど、歴史ある場所です。ただ、人が訪れることは少なく、保存会で「何かまちおこしができないか」と検討し「手打ちそば」「世界一小さな蚕博物館」などの仕掛けを打ってきました。

故郷愛や地域住民のつながりが強い畦町。1人が発した「何かやろう」に呼応し、実現するために手を取り合います。まち一番の催し「唐津街道畦町宿祭り」は、保存会会員の高齢化も進んだこともあり、準備するのも一苦労。それでも今年で10回目となる開催が決まり、役員を中心に準備が進んでいます。



岩熊寛 Iwakuma Hiroshi

## のぞきあなARTができるのは 世界で「津屋崎」だけ

毎年10月から11月にかけて行われる「のぞきあなART津屋崎」を主催しているのは、6年前に福津に移住してきた三浦直子さん。三浦さんは、千葉や東京、神奈川、アメリカなどを転々としてきた中でも「のぞきあなARTができるのは世界で津屋崎だけ」と自慢気に話します。

「古民家の壁の穴をのぞくと、そこにアートがある」。他愛もない茶話会で、そんなことができたかと話していたときに「できるよ」と後押ししてくれた古民家に詳しい人。「のぞいてもいいよ」と場所を提供してくれた人。古民家にアートを設置しているときに「面白い」と共感し、通りかかる人に穴の説明してくれた人。「壁をのぞく人」としてポスターに載り、イベント期間中、ポスターと同じ服を着てくれた人。他にもたくさんの方が三浦さんの支えとなり、背中を押してくれました。そんな津屋崎の人々の寛容さのおかげで、のぞきあなARTを始めることができ、3年間続けることができたと言います。



三浦直子 Miura Naoko

「作品だけじゃなくて、のぞいている姿がある津屋崎もアートになれば」。今年で4回目ののぞきあなARTも、津屋崎の人々とともに作り上げます。

## 福津の「野菜」には生産者の工夫と頑張りが詰まっている

市内で人気飲食店「となりのグリル」を運営する古賀広宣さん。地元産の食材を使用し、生産者の顔が見える安心で健康な食材にこだわっています。

古賀さんは、飲食店経営者である傍ら、市の食育を担う福津市食進会や、市の豊かな自然とそれに寄り添う人々の暮らしをお裾分けする「福津暮らしの旅」のスタッフとして運営に携わっていました。そのプログラムの中で、野菜を植えるところから生産者と関わり、収穫するまでの過程や生産者の人となりを知ったことで「福津の野菜が大好きになった」と言います。

中でも「福津のカリフラワーは雪のように白い」と絶賛。ただ、直売所にカリフラワーが並んでも、買い物客からはあまり評価されていなくて、生産者の工夫と頑張りを何とかして伝えたいと「となりのグリル」の黒板に野菜の生産者を書いたり、以前は「通常の5分の1の量の肥料で育てている」といった「生産者のこだわり」を紙に書き出し、客席に置いたりしていたそうです。

「見た目だけでは分かりづらいかもしれないけれど、工夫と頑張りの詰まった福津の野菜を食べてほしい」と古賀さんは願っていました。



古賀広宣 Koga Hironobu

### 環境アプリ「YUIMAALU」で地球からごみを減らそう

ごみを拾うとポイントが貯まり、すてきなアイテムと交換できる福津生まれの環境アプリ「YUIMAALU・ゆいまーる」を使ってみませんか。拾うごみは1個でも、週1回でも100ポイントのハードルの低さで、気軽に楽しく取り組みます。



### 「第10回唐津街道畦町宿祭り」を開催します

日時 10月27日(日)午前9時30分～午後3時  
場所 畦町地区一帯  
内容 開会式、出し物演技、パンコ市、子ども広場、駕籠屋でござる、ご神木ツアー、水族館、写真コンテスト。 ※駐車場あり。シャトルバス運行



### 「のぞきあなART 津屋崎」を開催します

日時 10月6日(日)～11月24日(日)  
場所 津屋崎千軒一帯  
ワークショップ 「みんなでもあれば怖くないツアー」「目隠しアート鑑賞会」「ナイトミュージアム」「朗読会」など



### 「直売所」で良質な農水産物が販売されています

水産物を直接販売している「お魚センターうみがめ」と、農産物を直接販売している「あんずの里市」「ふれあい広場ふくま」に3つの直売所では、相互に商品を流通販売しています。秋には「雪のように白いカリフラワー」も各直売所の店頭で並んでいるかもしれません。



# 「わたしの幸せ」が「みんなの幸せ」になる ウェルビーイング大賞が始まります！

## 最近よく耳にする「ウェルビーイング」とは？

well(よい)とbeing(状態)からなる言葉で、最近ではさまざまなシーンで耳にするようになりました。世界保健機関(WHO)では「個人や社会のよい状態」と紹介。日常生活の社会的、経済的、環境的状況に左右されるもので、日本語では「幸せ」に近いといわれます。市では2019年から、市民の皆さんがどのくらい「幸せ」を感じているかを調査するため、慶應義塾大学の前野教授が考案した「幸福度調査」を実施しています。結果としては、全国でも高い水準の幸福度にあることに加え「市民活動を実践している人」の幸福度が高い数値であることがわかり注目を集めました。この調査結果から、市民の幸福度を向上させるには、市民活動に取り組む人に目を向けることが大事だという想定に至りました。

## みんなで体感できる！ ふくつウェルビーイング大賞

この大賞は、市内で行われている市民活動の中から、特に社会性が高く、しかも市民各々が充実感や楽しみを抱きながら行われている「幸福度が高い市民活動」を選出し紹介するものです。団体や企業の皆さんが頑張っている姿を紹介することはもちろん、多くの素晴らしい市民活動が行われていることを伝えていきます。

## 「幸せ」と「市民活動」の より良いつながりに注目！

この大賞では、グランプリ表彰のような派手さやインパクトを求めています。持続性を持ちながらも楽しく活動ができているかなど、市民の幸福度向上につながる観点を重視するところが大きな特徴です。選考には、独自に考案した指標「9つの関係」を用いて「幸せ」と「市民活動」のより良い関係性を見える化します。市民活動をしていない方にとっても、まちの豊かさに触れたり、活動に感謝したり、自分がやってみたいことの発見になったりという「幸せ」につながる新しいきっかけが期待できるものとなっています。

第1回となる今回は、2019年9月1日から2024年8月31日までの5カ年の市民活動を対象期間として、エントリー募集を行います。自薦他薦は問いません。市メディアでの紹介や市民投票で選出する市民賞など、応募された活動を知ってもらう、褒めてもらうさまざまなコンテンツを用意しています。詳しくは市公式ホームページ、または市未来共創センター窓口を設置する募集要項をご覧ください。ご応募お待ちしております。

**「幸せ」と「市民活動」の9つの関係**

Well-being and Civic activities 9relationships

**多様さ**

多様なメンバーが協力し合う

**自分ごと**

活動が自分ごとになっている

**ウェルカム**

新たな仲間が加わりやすい仕組み

**フェア**

お互いが価値交換できる関係

**笑顔**

誰かの幸せを生み出す取り組み

**ストーリー**

みんなの共感を集めるストーリー

**ポテンシャル**

潜在的な声に耳を傾けている

**ワクワク**

みんなをワクワクさせる

**ひろがる**

人に伝える工夫

## 福津には目標実現のために導いてくれる「大人」がいる

「サッカーや野球と同様に「eスポーツ」は観る人と、競技する人がいて成り立つ」と話すのは、小・中学生とその保護者に向けたeスポーツの普及を図ろうと活動する「Team F.P.」の居石直多伽さん。eスポーツを体験・交流しながら、インターネットとの付き合い方が学べるイベントを開催しています。

高校生のとき、誰でも対等に戦えるeスポーツが大事な居場所となった居石さん。プロプレイヤーを目標にeスポーツの専門学校に通っていましたが、2年前に転機が訪れます。eスポーツの名を日本に轟かせたチームの世界大会を見て、その懸命に戦う姿や言葉が「この人のマネージャーとして働きたい」と心を動かしたのです。

明確な目標を持った居石さんは、eスポーツイベントを自ら企画・運営し、実績を積もうと考えました。しかし、開催する場所もなければ費用もありません。

そこで頼ったのが、さまざまな立場の「大人」でした。「ふくつの歌づくり」で関わった市職員。そこで紹介されたキッカケラボのスタッフ。そして両親。たくさんの人が親身に話を聞いてくれたことがきっかけで8月にイオンモール福津でのイベント開催が決定。目標に向けた一歩を踏み出しました。



居石 直多伽 Sueishi Naotaka

### 「ファミリー e スポーツ」を開催します

親子でeスポーツを学べるイベントを開催します。参加無料。  
 日時 8月11日(日)～8月12日(月) 正午～午後5時  
 場所 イオンモール福津 ノースコート  
 内容 ①「eスポーツ」についてのレクチャー  
 ②ゲーム体験③ミニトーナメント



## 「いっぱいあるから食べて」。そんな自然なやり取りが好き

鳥のさえずりや波の音が聞こえる勝浦の静かな集落にあるカフェ「いな屋」。「お気をつけて」と明るい声で客を送り出したのは店主の中村慈恵さん。開業から2年、開店時には毎日昼食を食べに来る人もいます。「ここがカフェなのは週に3日だけ。それ以外はレンタルスペースとして、いろいろな人が面白いこと、楽しいことを持ち込んで、人のつながりが広がっていく場所にしたい」。そんな考えから、歌が得意な中村さんがゴスペルサークルを開くなど「楽しんでもらえることを思いつくことからやっている」と話します。

移住してきた当初、年配の人が多く集落に若い世代が入り込んで大丈夫だろうかと不安だった中村さん。でも、ふたを開けてみると「いな屋」に行こうとして迷った人を近所の人が案内してくれたり、野菜や花の苗などをお裾分けしてくれたり、受け入れてくれた人たちばかりでした。「いっぱい野菜取れたから食べて」。そんな自然なやり取りが好きだと中村さんは言います。

「いな屋を始めたことでたくさんの出会いがあって、いろいろなつながりが生まれた」。中村さんは、これからも「いな屋」で人と人がつながり「面白い」や「楽しい」が広がってほしいと願っていました。



中村 慈恵 Nakamura Yoshie

### 「ビーチクリーン活動」を行います

「海に恩返しをしたい」「小さなことでも環境のためにできることをしたい」との思いで昨年4月から勝浦浜でビーチクリーン活動を行っています。  
 日時 月1回開催。8月の活動日は7月下旬に  
 インスタグラムでお知らせします



## キッカケラボの おすすめメニュー

### みんなの交流会 (8/17 開催)

トークフォークダンスで知り合い、福津の美味しい食を楽しみ、つい参加したくなる市民活動を語るなど、福津のヒト・モノ・コトで交流します。詳しくは23ページ情報広場をご覧ください。



### SDGsのキッカフェ (8/8 開催)

SDGsをより身近に感じ、暮らしや地域で活かすための学びと交流の場です。第4回のテーマは「地産地消」。地元食材を選んで食べる意味を考えます。詳しくは23ページ情報広場をご覧ください。



キッカケラボに遊びに来ませんか  
 福津のこと、福津で活躍している人たちのことをもっと知りたい。自分も何かやってみたい。市未来共創センター(キッカケラボ)は、そのような思いを持つ人にお薦めの施設です。市民活動や助成金の情報に加え、ボランティア・市民活動、SDGsなどをテーマにした、学びや交流の場を開催しています。一歩前へ進むキッカケづくりを「お手伝い」する「コネクター」と呼ばれるスタッフが、話を聞き、相談に合わせた情報へとつなぐ支援もしています。



キッカケ ラボ

KIKKAKE LAB.

福津市未来共創センター

場所 市中央公民館 開館時間 午前10時～午後6時

休館日 毎週日曜・月曜日 ※月曜日が祝日か振替休日の場合はその翌日

問い合わせ ☎0940・42・9071、メールアドレス kikkake@city.fukutsu.lg.jp



▲詳しくはウェブへ